



全農教

# 日本帰化植物友の会通信



NO.4 [2004年7月12日 発行]

## 新帰化水草・アメリカコナギ属の一種 ツルアメリカコナギ(新称)

水田 光雄\*

Mitsuo MIZUTA : *Heteranthera zosteraefolia* Martius (Pontederiaceae),  
a newly naturalized aquatic plant in Itami-city, Hyogo Prefecture

### はじめに

近年のアクアリウムブームを反映して、外国産の水草栽培が増加の傾向にある。筆者は、1999年から2003年まで、関西空港で植物検疫の仕事に従事し、主に東南アジア等から輸入される多種類の水草を検査し、その種類の多さを目の当たりにしてきた。我が国では既に、帰化水草としてオオカナダモ、ホテイアオイ等が古くから知られているが、最近になりボタンウキクサ、ミズヒマワリ等が栽培から逸出し、帰化の報告が各地から聞かれるようになった。今回の報告もまた、新たに野生化した外来水草の紹介である。

### 記録種

ミズアオイ科アメリカコナギ属

新称名：ツルアメリカコナギ

学名：*Heteranthera zosteraefolia* Martius

発見年月日 1999年9月13日

発見場所 兵庫県伊丹市昆陽門ノ前

(東経 135° 23' 59", 北緯 34° 46' 48")

水路及び水田内一区画のクワイ栽培田

### 形態

上記の場所のうち、水路で生育しているものは葉の形状が水上葉と水中葉の2タイプとなる。クワイ栽培田のものは、葉は全てが水上葉で、長さ5cm程度、幅5mm程度でテープ状となり、少し肉厚に見受けられる。葉先は鈍頭である。水中葉は水上葉より長く、薄い。水路で生育しているものは、茎が50cm位の長さとなっている。花冠の幅は2cm程度、花被片は6枚で淡紫色をし、花被片のつけ根付近は色が濃くなる。雄しべは3本で、そのうち1本が長い。葯は黄色をして

いる。雌しべは透明感のある白色で、柱頭部は淡い灰色をしている。花は1花茎に通常2花を同時につける。同属のアメリカコナギ (*H. limosa* Willd.) は、葉身と葉柄が明確に分化しており、葉身は卵状被針形から卵形していること、花被片は白色または青紫色で1花茎に1花をつけることにより識別できる。

### 生育地の状況

当該生育地の周辺は住宅で囲まれており、水田と道路の間につくられた幅50cmたらずの水路及び併設して栽培されるクワイ栽培田に、雑草のごとく生育している。広さは幅3m、長さ20mぐらいの場所である。水路には、コカナダモが本種と混在し、クワイ栽培田には、ウキアゼナ、タケトアゼナ、ホソバヒメミソハギ等の帰化植物などが生育している。

### ノート

当該種が属するアメリカコナギ属は、アメリカやアフリカの熱帯から亜熱帯地帯に約10種類が分布している。今回の記録種も、ブラジル、ボリビアに自生し、アフリカ熱帯部からマダガスカルにも分布している様である。我が国には既に同属のアメリカコナギ (*H. limosa* Willd.) が帰化しており、当該生育地に隣接する水田にはアメリカコナギの白花種が生育している (2003年9月13日発見)。

発見当初、アメリカコナギより葉が細いことから、ホソバアメリカコナギという和名を考えていたが、アメリカコナギも生育環境により葉が細くなることもあり、和名として相応しくないように思い、本種がその茎をツル状に匍匐させ、節から発根するという特徴をもつことから、ツルアメリカコナギという和名を提唱した次第である。水槽等で



▲ ツルアメリカコナギ

深水の状態では栽培すると、水中では当然のことから茎は立つようになる。原産地等の自生状況はよく判らないが、茎の形状から水際等の水位変動がある場所や水の少ない止水域に生育していると考えられる。

当該種を発見してから5年が経過しているが、毎年絶えることもなく生育がみられる。また2003年は多くの開花個体を確認することができた。現在当該場所以外での帰化報告を聞いていないが、アクアリウム用の水草と

して利用されていることから、栽培逸出品が既に何処かで記録されていることも考えられる。本種の帰化に注意するとともに、会員諸氏の情報提供をお願いする。

今回の報告に当たり、現地の確認等種々指導下さった本会員の大阪府立農芸高校教諭 植村修二氏に感謝申し上げます。

(注) 写真はカラー頁参照

兵庫の植物・兵庫県植物誌研究会より転掲

## 神戸港新産の帰化植物(4)

水田光雄\*

Mitsuo MIZUTA: Newly naturalized plants at Kobe port (4)

### はじめに

前報(水田 2003)に続き、2003年に新たに記録された帰化植物及び同定完了した種類について報告する。報告にあたり、ご指導いただいた大阪府立農芸高校の植村修二氏並びに神奈川県立生命の星地球博物館の勝山輝男学芸員にお礼申し上げます。

### 追加した種類数

水田(1999)に新たに追加した種類はこれで10種類、全体で435種類(亜種、変種、品種を含む)となった。追加種は目録のとおりである。また、これらの中から特記される種類を選び紹介する。なお、採集標本は全て頌栄短大の標本庫へ収めた。

### 特記される種類

#### 1. ヒメヒレアザミ

*Carduus pycnocephalus* L.

2003. 4. 12 兵庫区築地町

欧州から西アジア原産の植物である。形状としては茎に翼(ヒレ)があるほか、茎葉には鋭い刺をもつ。頭花は3個程度つき、花冠は淡紅色をしている。本種は、1916年西宮市で高田仁一氏が採集し、久内清孝氏により報告されている種類で、この標本は国立科学博物館に保存されているという。筆者は、2000年神戸市東灘区本山中町に帰化したものについて、当時情報をいただいた植村修二氏に案内してもらい観察した。また、本種は昨年、姫路市でも採集されている(矢内正弘氏私信)。

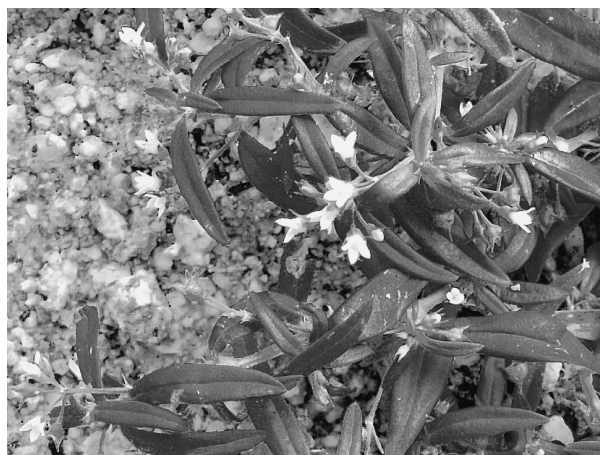
上記生育地は道路脇植込みで、1m程度に成長した株が1株見られた。なお、本県以外では千葉、三重、大阪等で採集されている。

#### 2. タマザキフタバムグラ

*Hedyotis corymbosa* (L.) Lam.

2003. 11. 5 中央区波止場町

東南アジアからインド、アフリカ、南北アメリカの熱帯、亜熱帯地域にかけ分布する植物である。形状としては、茎が散房状に分枝し、地面に張り付いた様になる。花は白色で3~5個程度つける。草姿は一見してクルマバザクロソウに似ている。我が国では、戦後沖縄に帰化しているもので、最近神奈川、千葉から報告されているほか、日本帰化植物友の会のメール情報交換によると、



▲ タマザキフタバムグラ

東京、大阪からの採集報告がある。上記生育地ではマリーゴールドの植えられた花壇内の雑草として多数が生育しており、土壌改良材として使用されたヤシ殻「流通名: ココピート等」によるものと考えられる。最近記録されるものはこの土壌改良材によるものである。分布地の東南アジアでは、ヤシ園やゴム園等の耕作地の優占雑草となっている。ヤシ殻の土壌改良材からは本種以外にも幾つか報告されているが、今後の使用量増大と温暖化により定着の可能性が考えられる。なお、当該生育地は今後とも継続観察の予定である。

#### 3. イトツメクサ

*Sagina apetala* Ard.

2003. 4. 27 中央区港島及び港島南

2003. 5. 1 中央区波止場町

欧州原産の植物である。南北アメリカ、オーストラリアなどに帰化している。形状としては、花柄や萼片の外側に腺毛があり、集散花序をなし萼片は開くが、花弁はほとんどもたない。萼片が開いた状況を見ると花が咲いている様に見まちがえる。

我が国では、1942年広島県で採集されているほか、1979年徳島県で採集されている。上記生育地のうち、中央区港島と波止場町のは、多数が公園内の敷石縁石の隙間、植込み内に生育していた。また、港島南のは、新設の事務所の緑地で多数が芝地の中や敷石され



▲ イツムメクサ

た歩道の縁等に生育していた。本種は目立たない種類で、そのつもりで調査しないと見過ごしてしまう。なお、神戸港には、大阪府堺市や北河内地区で記録されているキヌツムメクサ (*Sagina* sp.) が帰化しており、注意して見ていく必要のあるグループである。

#### 4. アメリカウンランモドキ

*Agalinis heterophylla* (Nutt.) Sma ex Britton

2002. 10. 7 中央区港島南

最近我が国に帰化した、新しい北米原産（南部地方）の植物である。以下本種の発見経緯等について紹介する。本種の帰化については、2000年10月長崎県佐世保市内で川内野善治氏が記録されたものについて、神奈川県立生命の星地球博物館の勝山輝男氏及び長崎大学教育学部の中西弘樹氏が植物地理・分類学会誌に報告された。

筆者は本種を2002年5月11日、神戸市中央区港島のポートアイランドで多数生育しているのを見つけていた。発見状況は、道路脇の溝に多数の不明の芽生え（10cm程度）があり、また、前年の枯死した不明種の残骸が沢山あった。生育状況からして、両者は同一のものと判断された。花は秋に咲くものと考えられた。当日、箕面市の植村氏宅へ幼株と枯死した残骸を持参した結果、ゴマノハグサ科の植物らしいことが分かった。

6月23日、神戸港に植村氏を案内したおり幼株を少々採取の上、植村氏に栽培をお願いした。10月の始め栽培中の株が開花した旨、植村氏から連絡をいただいたので、10月7日、ポートアイランドへ見に行った。生育地の道路脇の溝は、濃い桃色花でいっぱい、大変驚いた。秋の時期にピンクの花は非常に目立ちきれいだった。10月14日、改めて植村氏を案内し詳しく調べた結果、付近の空地にも僅か生育していた。この道路は輸入貨物のコンテナを積んだトラックが行きかう場所で、この道路脇の溝にはユメノシマガヤツリも生育する。また、空地には表土流失防止を目的に輸入牧草種子が播かれている。本種の和名について、植村氏との会話の中で便宜的にメリケンゴマクサと仮称して呼ぶことにした。その後2003年7月、長崎で記録されているアメリカウンランモドキと同じものと思われ旨、植村氏から連絡をもらった。同氏から報告された論文のコピーをいただき、2002年採集した手持ち標本を元に再度同定した。確認を得るため、当該神戸港産の標本と花の写真を勝山学芸

員に送付し同定していただいた結果、長崎で記録されているアメリカウンランモドキに間違いのない旨の連絡をいただいた。生育状況からして、神戸港に侵入して2、3年は経過しているように思われた。秋は帰化植物調査が手薄の状況であることや生育地が一般者の立入禁止の場所となることなどから、2002年の発見となった。長崎の発見が2000年であるので、長崎と前後して神戸港にも進出してきたものと考えられる。

2003年の調査では、最初生育の見られた道路脇の溝は、道路拡張整備によってなくなっているが、周辺の空地に侵入し、多数が生育しており定着状況にある。



▲ アメリカウンランモドキ

#### 5. ハリゲナタネ

*Brassica tournefortii* Gouan

1993. 5. 31 港島, 1996. 4. 20 摩耶埠頭, 1996. 4. 29 向洋町西, 1996. 4. 9 小野浜町, 1998. 4. 9 兵庫区築地町

地中海沿岸地方原産の植物である。形状としては、根生葉はダイコンの葉に似ており、触ると痛いほど剛毛がある。花は淡黄色で、生長株は1m位の株立ちになり、春先の早い時期から開花が始まる。筆者が帰化植物の研究を始めた当時、本種をキバナズシロモドキと教わった。平凡社の「日本の帰化植物」(p.86)と全農教の「日本帰化植物写真図鑑」第1刷版(p.110)のものがこれにあたる。ハリゲナタネは植村修二氏が新称したもので、日本帰化植物友の会通信(No. 2, 2003年)に発表した。

著者はいままで、神戸港以外では、香川、岡山、広島の港湾部で記録したことがある。香川県(坂出市)では1967年にキバナズシロモドキとして採集された記録があり、著者が坂出市に居住(1986~1991年)していた時、香川植物の会の会長をされていた和气俊郎氏から教わったものも今回報告したハリゲナタネに該当する。現在では横浜、静岡、大阪、福岡等から採集記録されている。著者の今までの観察から、北米産輸入小麦類の随伴種からの可能性を考えている。なお、本種は我が国の気候的環境に適応しにくく、一次帰化の範疇から脱しない種類と見ている。

調査地の所在地

調査地区名	所在地
P. I (ポートアイランド)	神戸市中央区港島, 港島中及び港島南
小野浜	神戸市中央区波止場町, 新港町及び小野浜町
摩耶	神戸市灘区味泥町, 灘浜町及び摩耶埠頭
六甲 (六甲アイランド)	神戸市東灘区向洋町西, 向洋町中及び向洋町東
深江	神戸市東灘区深江南町 4 丁目及び深江浜町
兵庫	神戸市兵庫区築地町 (兵庫埠頭)

帰化植物目録 (追加種)

キク科 (Compositae)

ヒメヒレアザミ *Carduus pycnocephalus* L.

兵庫 (2003)

欧州～西アジア原産

キクニガナ *Cichorium intybus* L.

P. I (2003)

欧州原産

アカネ科 (Rubiaceae)

タマザキフタバムグラ *Hedyotis corymbosa* (L.) Lam.

小野浜 (2003)

東南アジア～インド他分布

ゴマノハグサ科 (Scrophulariaceae)

アメリカウンランモドキ *Agalinis heterophylla* (Nutt.) Sma ex Britton

P. I (2003)

北米原産

オオカワジシャ *Veronica anagallis-aquatica* L.

P. I (2003)

欧州～アジア原産

ナス科 (Solanaceae)

ムラサキイヌホウズキ *Solanum memphiticum* Mart.

兵庫 (2003), 小野浜 (2003), P. I (2003)

南米原産

従来, 筆者はアメリカイヌホウズキと混同していた。

アブラナ科 (Cruciferae)

シロイヌナズナ *Arabidopsis thaliana* (L.) Heynh.

P. I (1993), 小野浜 (2003), 摩耶 (1993)

ユーラシア, 北アフリカ原産

我が国にも在来種として分布するが, 部分帰化種として扱われた。

ハリゲナタネ *Brassica tournefortii* Gouan.

兵庫 (1997), 小野浜 (1993), P. I (1996), 摩耶 (1997), 六甲 (1997), 深江 (1999)

地中海沿岸地方原産

ナデシコ科 (Caryophyllaceae)

イトツメクサ *Sagina apetala* Ard.

小野浜 (2003), P. I (2003)

欧州原産

ツキミマンテマ *Silene nocturna* L.

P. I (1993), 摩耶 (1996), 六甲 (1996)

地中海沿岸地方原産

文献

千葉県史料研究財団編 2003. 千葉県植物誌. 千葉県.

初島住彦・天野鉄夫 1984. 琉球植物目録. 沖縄生物学会.

久内清孝 1955. アブラナ科の外来品. 植物研究雑誌 30 (4): 31.

勝山輝男・中西弘樹 2003. ゴマノハグサ科の新帰化植物 アメリカウンランモドキ (新称).  
植物地理・分類研究 51 (1): 73-74.

神奈川県植物誌調査会編 2001. 神奈川県植物誌. 神奈川県立生命の星・地球博物館.

Lamp, C. and F Collet 1993. Field Guide to WEEDS IN AUSTRALIA. Inkata Press.

水田光雄 1998. 神戸港の帰化植物 (完結). 兵庫の植物 (8): 47-60.

水田光雄 2001. 阪神帰化植物情報 (13). 兵庫県植物誌研究会会報 (47): x.

水田光雄 2003. 神戸港新産の帰化植物 (3). 兵庫の植物 (13): 145-148.

清水建美編 2003. 日本の帰化植物. 平凡社.

清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 2001. 日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会.

- 竹松哲夫・一前宣正 1987. 世界の雑草 (I) 合弁花類. 全国農村教育協会.  
 竹松哲夫・一前宣正 1987. 世界の雑草 (II) 離弁花類. 全国農村教育協会.  
 植村修二 2003. ツキミマンテマとハリゲナタネ. 日本帰化植物友の会通信 (2): 6.  
 和気俊郎 1980. 香川県帰化植物目録 (4). 香川生物 (9): 1-4.

(注) 写真はカラー頁参照

\* 〒664-0886 伊丹市昆陽東 4-7-36 兵庫の植物・兵庫県植物誌研究会より転掲

## 兵庫県におけるアメリカタカサブロウとタカサブロウ(キク科)の分布と生育地

矢内正弘<sup>1</sup>・松永麻子<sup>2</sup>

Masahiro YANAI and Asako MATSUNAGA : Distribution and habitat of *Eclipta alba* and *E. thermalis* (Compositae) in Hyogo Prefecture

### はじめに

高砂市の植物を調査されている畑中氏から、頌栄短大の黒崎先生の同定によると高砂市のタカサブロウはアメリカタカサブロウばかりだと聞き、姫路市も調査しないといけないと思った。村瀬ますみ氏の報告(1999)を黒崎先生に頂き、植村修二氏からはアメリカタカサブロウの報告(植村 1998)を送ってもらった。アメリカタカサブロウの名前は3年ほど前から聞き、そう果が細いことは知っていたが、2種を識別する能力はなかった。ましてやアメリカタカサブロウが県内のどこまで広がっているのか、タカサブロウと分布などの点でどう違うのか、兵庫県にはいつ頃から入ってきたのかなど、はっきりしないことばかりだったので、調査を始めた。それがいつの間にか調査の範囲が広がり、およそ県内全体を調べることになった。

### アメリカタカサブロウの県内に入った時期と県内での報告

梅本(1997)によれば、わが国におけるアメリカタカサブロウの最も古い記録は1948年の兵庫県神戸市産の標本であるという。頌栄短大の標本を調べると、最も古い標本と同じ年に採られた神戸市長田区长田の標本(H. Muroi 10 sept. 1948)があったが、1950, 1960年代の標本はない。1970, 1980年代の標本をあげると、1978年: 神戸市北区山田町藍那(H. Kodera), 三原郡南淡町吹上(N. Fukuoka 9876), 1979年: 神戸市北区寺谷口(H. Kodera), 1980年: 神戸市垂水区押部谷(N. Fukuoka & N. Kurosaki 3413), 1986年: 神戸市西区金棒池(T. Kobayashi 6630), 1987年: 津名郡五色町先山(N. Kurosaki 15915), 1988年: 明石市中八

木中八木海岸(T. Kobayashi 11719), 1989年: 三原郡南淡町吹上百間堀(T. Kobayashi 14018)の計8点だけである。植村修二(1998)も大阪府箕面市で1978年に気づいている。1948年ごろに帰化して以来、アメリカタカサブロウは1970, 1980年代には分布を広げつつあったと思われるが、あまり採集されなかったようだ。

ところが1990年代になると頌栄短大のアメリカタカサブロウの標本は25点に増え、さらに2000年代には2003年11月現在で27点が採られており、短い期間にたくさん採られていることがわかる。それは植物誌や植物目録をつくる目的で標本をつくり、頌栄短大に寄贈する人が増えたことも原因だろう。ちなみに、頌栄短大にある県内のタカサブロウの標本は全部で22点なので、アメリカタカサブロウ(計61点)はタカサブロウの3倍近く採られていることになる。

県内でのアメリカタカサブロウの報告は水田(1997)が最初である。本種はだいぶ以前から普通に見られたのに、長田(1986)などにも出ていないので、人に知られずにきたものであろうと、指摘されている。水田(1998)には小野浜, 六甲アイランド, 兵庫区の3箇所の採集記録がある。続いて中澤ほか(2001)には2000年に浜坂町田君(MY & H. Ono 36251)で採られた標本が引用されている。また、武田義明ほか(2003)の植生表の中にはタカサブロウとアメリカタカサブロウが区別され、アメリカタカサブロウが42回、タカサブロウが11回記録されている。アメリカタカサブロウの方が約4倍の出現頻度である。

なお、今までタカサブロウの学名は *Eclipta Prostrata* L. とされてきたが、梅本(1997)や梅本ほか(1998)

表1 タカサブロウとアメリカタカサブロウの区別点

	タカサブロウ	アメリカタカサブロウ
頭花の大きさ	大	小
そう果の大きさ	幅 およそ1.7mm 長さおおよそ2.9mm	幅 およそ1mm 長さおおよそ2.1mm
茎	太い 下部ふくらまない	細い 下部がややふくらむ
葉形	幅広い	細長い

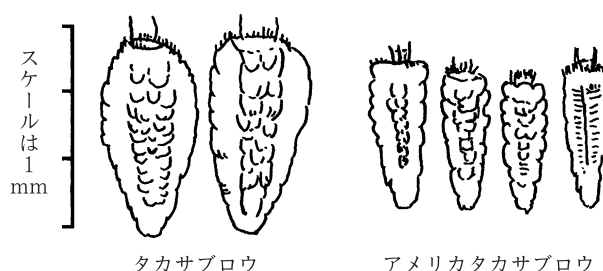


図1 タカサブロウとアメリカタカサブロウのそう果の比較

表2 タカサブロウとアメリカタカサブロウの生育地

	休耕田	畑	畔	田の縁	溝	荒地	湿地	その他	合計
アメリカタカサブロウ	157	162	105	70	23	11	6	12	546
タカサブロウ	74	63	89	64	9	8	6	4	310

によれば、この種はインドに分布するもので、日本のものとは異なるという。日本のものは *E. thermalis* Bunge と *E. alba* Hassk. に分けられるという。前者は東南アジア、中国、朝鮮半島に分布し、これがわが国へ古く渡来し、後者は戦後入ってきたらしい。

両種の識別

2種の識別は、黒く熟して今にも落ちそうなそう果で見るのが最も確実である。タカサブロウに比べ、アメリカタカサブロウのそう果は幅、長さとも小さく、両種の中間的なものは見られないので区別できる(表1, 図1)。他に葉型や茎のふくらみ、きょ歯など(梅本 1997)を参考にすればよい。

なお、清水建美編(2003)にタカサブロウのそう果は翼の部分があるとあるが、筆者にはよく分からなかった。アメリカタカサブロウは、タカサブロウに比べ茎の枝分かれが多く、地面を這う姿勢をとる場合が多い。葉や茎も細くて、頭花も小さい。その上、草刈り機で刈られても細い茎が再生し、また花をつける。その繁殖力は大きい。村瀬(1999)も気付いているように、アメリカタカサブロウの方が早く枯れ黒くなる。県内では11月になると多くのものが枯れ始める。タカサブロウの方が遅くまで生育している。従って遅い時期に採集するとその比率が不正確になる。

調査方法

2003年9~11月に県内の野外で採集した種子と頌栄短大の標本により、2種の出現頻度と生育地について調べた。ただ、生育地については次のような理由から、多少、採集者の主観が入っている。例えば、田の縁とはイネが植えられている所と畔の間を指すが、実際は畔脇から植物が生えている場合も多い。畑は多くの場合はマメ畑だが、時にはサツマイモ、その他の野菜畑もある。休耕田についても1年だけのこともあるが2年、3年経過

すると荒地、同様になる。マメ畑も除草をしないと休耕田や荒地同様となる。この区別は採集者の主観がはいっている。休耕田も水が多いと湿地になる。その場合は湿地とした。種子の採集場所は少なくとも30m以上は離すようにし、できるだけ違った環境のものを採るようにした。種子は熟して黒くなったものを採集し、家に持ち帰ってからルーペで同定した。さく葉標本は頌栄短大の標本庫を利用してもらった。採集した種子の一部については、硫酸紙に入れてさく葉標本と共に頌栄短大に収めている。

結果と考察

1 生育地の違い

表2には両種の生育地をまとめて示している。この表を見ると、アメリカタカサブロウは休耕田や畑に特に多く、畔や田の縁ではやや少ない。一方、タカサブロウは畔が最も多く、休耕田や畑ではやや少ない。従って休耕田や畑ではアメリカタカサブロウの方がかなり多くなる。この種が乾燥に強いと考えられる。この表には示していないがタカサブロウはアメリカタカサブロウと違って土手や路傍など乾燥した所には生えない。

畔、田の縁、溝、湿地などの湿った環境に生えるアメリカタカサブロウは休耕田や畑に比べると少なくなるが、生育地の数はタカサブロウに比べたら多い。武田義明ほか(2003)の植生調査でも、アゼガヤーヒデリコ群落、クログワイ群落、コナギーウリカワ群落などの水湿地には多くのアメリカタカサブロウが出現し、タカサブロウもわずかに生育することが記録されている。このように、アメリカタカサブロウの方がタカサブロウに比べ、より生育適応範囲が広いといえる。

2 地域別の出現頻度

タカサブロウとアメリカタカサブロウは県内の各地の稲作地や畑がある場所では、必ずといっていいぐらい見

表3 地域別のタカサブロウとアメリカタカサブロウの出現頻度

	美方郡	城崎郡	豊岡市	出石郡	養父郡	朝来郡	宍粟郡	佐用郡	上郡町
アメリカタカサブロウ	6	8	8	6	54	25	16	18	31
タカサブロウ	1	7	0	2	11	3	0	12	10
	赤穂市	揖保郡	相生市	龍野市	飾磨郡	神埼郡	姫路市	多可郡	西脇市
アメリカタカサブロウ	2	7	7	4	3	43	53	24	1
タカサブロウ	0	5	0	2	0	19	23	4	2
	加西市	加東郡	小野市	吉川町	三木市	高砂市	加古川市	加古郡	明石市
アメリカタカサブロウ	27	12	29	10	18	17	13	15	15
タカサブロウ	12	12	38	3	8	11	7	17	20
	氷上郡	多紀郡	三田市	西区	垂水区	北区	須磨区	兵庫区	東灘区
アメリカタカサブロウ	12	8	14	58	0	14	2	1	1
タカサブロウ	2	5	9	39	1	16	0	0	0
	川辺郡	宝塚市	伊丹市	西宮市	淡路島				
アメリカタカサブロウ	4	3	1	1	6				
タカサブロウ	4	1	1	1	23				

つけられた。両種とも農耕と深い関係がある植物といえる。表3は両種の出現頻度を地域別にまとめたものである。

全体的にみると県内ではアメリカタカサブロウの方が断然多い。しかし淡路島においては逆にタカサブロウが非常に多く見られる。小林(1992)は、セイヨウタンポポが他の地域では多く見られるのに淡路島ではごくわずかししか見られなかったことに注目し、明石淡路間の橋の開通に伴って生育地が増えるのではないかと考えている。その他では、小野市及び明石市でタカサブロウの方がやや多い。事例はやや少ないが、加古郡、加東郡、神戸市北区がほぼ同じくらいである。それ以外の地区においてはアメリカタカサブロウの方が2~6倍多い。城崎郡、豊岡市、出石郡などの県北部でも事例はやや少ないが4倍ほど、また神崎郡、養父郡、多可郡の山間部の農耕地でも2~6倍ほどアメリカタカサブロウが多いことが分かる。これから先10~20年と時間が経過したときに、両者の勢力圏(出現比率)がどう変化するか、興味深い。

### 3 分布拡大のなぞ

梅本信也(1997)によると、京都大学理学部、国立科学博物館、東京都立大学牧野標本館のさく葉標本数は1885~1984年でタカサブロウの110点に対して、アメリカタカサブロウは1/6のたったの17点である。アメリカタカサブロウは日本全土に広がっているが、伝統的な水田畔や地理的に隔離された山間部には見られない。道路沿いや構造改善された水田畔によくみられることから、アメリカタカサブロウの分布拡大には、交通網の発達や水田の構造改善事業が一役かっているようであると

述べている。それから20年も経っていないのに、この度の調査でアメリカタカサブロウがどのように全県的に広がっているのはどうしてだろうか。国の米作減反政策により稲作面積が減り、休耕田やマメなどの畑作が増えてきたためかもしれない。アメリカタカサブロウはこのような環境にうまく適応しているといえよう。メリケンカルカヤ(イネ科)は種子が風に飛ばされ、荒地、路傍や山の斜面など至る所に分布を広げ、セイヨウタンポポやヒメジョオンも種子が風に飛ばされ広がった。しかしタカサブロウ属の種子は風に飛ばされて広がることはなく、種子が水に浮かんで分布を広げているものと考えられるが、このように全県的に広がった理由はよく分からない。またこのアメリカタカサブロウがどのようなものといっしょに国内に侵入してきたものかも、今のところよくわかっていない。

### 要 約

アメリカタカサブロウは、兵庫県全域に広がって分布しており、淡路島などわずかな地域を除き、タカサブロウより2~6倍生育地が多い。また、タカサブロウが田の縁や畔に多いのに対して、アメリカタカサブロウは休耕田や畑にたくさん見られ、より乾燥した場所に適している。これからさらに水田が減っていくと、タカサブロウの生育場所が減っていくのではないだろうか。

### 謝 辞

頒栄短大の標本庫を利用させてもらった。関係各位に感謝致します。また植村修二氏には帰化植物のことでいつもお世話になっています。明石氏在住の小野一氏にはこの度たくさんの種子を集めていただいた。その労苦にお礼申しあげます。

### 文 献

- 長田武正 1986. 原色日本帰化植物図鑑. 保育社.  
小林禧樹 1992. 淡路島の植物誌. 自然環境研究所.  
梅本信也 1997. タカサブロウの起源. 雑草の自然史(山口裕文編). 北海道大学図書刊行会.  
水田光雄 1997. 兵庫県植物誌研究会会報. (31): 3  
水田光雄 1998. 神戸港の帰化植物調査. 兵庫の植物. (8): 39-73.  
梅本信也ほか 1998. 日本産タカサブロウ2変異型の分類学的検討. 雑草研究. 43 : 244-248.  
植村修二 1998. 身近にある外来雑草アメリカタカサブロウ. 近畿植物同好会会誌. (21): 21-26.  
村瀬ますみ 1999. タカサブロウとアメリカタカサブロウ. 南紀生物. 41 (2): 148.  
中澤博子, 清水伸子, 小林禧樹, 黒崎史平 2001. 美方郡浜坂町の植物目録. 兵庫の植物. (11) : 5-70.  
清水建美編 2003. 日本の帰化植物. 平凡社.  
武田義明, 山隅悠子, 石田弘明 2003. 北摂地域の調整水田に発達する植物群落. 兵庫生物. 12 (4): 180-192.  
1 〒670-0811 姫路市野里大日町 345-2    2 〒674-0084 明石市魚住町西岡 671-3  
兵庫の植物・兵庫県植物誌研究会より転掲

### [ 事務局よりのお知らせ ]

#### \*原稿を寄せてください。

「日本帰化植物友の会通信」は皆様の「ひろば」です。新しい帰化植物の紹介、新しい知見、分布情報、地域の活動、エッセイなど、帰化植物に関するあらゆる情報をお待ちしております。原稿が集まったら通信を発行します。

#### \*No. 3のクイズの答

友の会通信 No. 3のカラー頁で「クイズ・これはなんでしょう」というクイズを掲載しました。答は左がハナヤエムグラ、右はウキアゼナの幼植物です。多数の正解者の中から抽選で10名の方に賞品を送りました。

## ● 友の会第1回観察会を開催

平成15年8月31日(日)に、全農教帰化植物友の会事務局主催の第1回観察会と交流会を実施しました。当日は曇りのち晴れの天気恵まれ、絶好の観察日和でした。講師陣として九州から森田弘彦様、関西から水田光雄様、植村修二様にお出いただき、遠くは岡山、大阪、三重から、そして関東周辺の皆様と約100名の方が参加され、あまり多数のため、観察会は2組に分けて時間差を設けて実施しました。観察場所は全国でも珍しい東京都立木場公園内に設けられている帰化植物見本園。園内には夏の帰化植物約100種以上が花を咲かせておりました。観察会はまず、公園管理事務所の中條所長からご挨拶をいただき、次いで木場公園友の会会長のご挨拶に続いて、帰化植物見本園友の会の代表渡辺ヨシノ様から見本園の規模、管理のご苦労などのお話しをしていただきました。この見本園は木場公園友の会の中の帰化植物見

本園友の会の方々が、ボランティア活動で管理されていますが、この友の会の皆様方のご好意によって、当日までにきれいに整備されており、各植物にラベルが立てられていて大変見易くなっておりました。特にこの日のために特別展示をしていただいたものがあります。それは「カブダチアッケシソウ」です。「カブダチアッケシソウ」は東京湾で発見され、現在は最初に発見された東京湾の場所に生育していますが、ここは立ち入り禁止になっていて一般の人には見る事ができないようになっています。これをこの観察会のために友の会の皆様のご好意によって、1株鉢植えになって展示されておりました。参加された皆様はこの幸運に感激しておられました。観察会の後の交流会には60名以上の会員が参加され、約3時間楽しい懇親会が開かれ大盛況のうちに終わりました。



① 帰化植物見本園の説明を聞く会員  
② 特別展示のカブダチアッケシソウ  
③ 木場公園友の会会長のご挨拶  
④ 見本園を見学する会員  
⑤ 見本園友の会の代表渡辺ヨシノ様

## ■ 事務局だより

### ● 友の会会員の特典について

日本帰化植物友の会の会員の方には、全国農村教育協会発行の図書については、本体価格の1割引でお送りいたします。全国農村教育協会の図書でご希望のものがございましたら、FAXまたは郵送で注文して下さい。この場合必ず会員番号を記入して下さい。(会員番号は宛名シールの下に記入してあります。)

※なお、この特典は書店を通じての注文には適用されませんので、必ず直接申し込んで下さい。(送料はかかりません。代金は請求書、振替用紙を同封しますから、現品到着後にお支払い下さい。)

今年度の新刊には写真で見る植物用語、雑草の逆襲など多くあります。詳細は同封の図書目録をご覧ください。

### ● 中国雑草原色図鑑・特別領布

好評をいただいている「中国(中華人民共和国)雑草原色図鑑」本体価格22,000円+消費税を、本会会員に

限り消費税・送料込みで12,000円で頒布しております。残部がまだわずかありますので、ご希望の方はお申込み下さい。なお、この特別価格は書店を通じての注文は適用されませんので、必ず全国農村教育協会に直接注文して下さい。注文は必ず会員番号を明記して下さい。また、本書は中国大陸に生育する雑草約800余種を収録し、1種類数点の写真を使用、中国語、日本語、英語で解説し、生態、形態の説明の他、用途として漢方薬としての記載もあり、中国の雑草を知ることができる唯一の図鑑で、オールカラー、A4判430頁の図鑑です。

### 全農教・日本帰化植物友の会事務局

〒110-0016 東京都台東区台東1-26-6  
(植調会館) 全国農村教育協会内

TEL 03-3833-1821 FAX 03-3833-1665

<http://www.zennokyo.co.jp>

e-mail:kika@zennokyo.co.jp